

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2016 年 10 月 25 日 VOL.39 第 279 号 定価 550 円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 口座名:特定非営利活動法人アムダ

2016 年
秋号

秋

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第10回 小野田 松濤 様 (書家)

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA) <http://amda.or.jp/>
 認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 <http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター <http://amda-imic.com/>
 AMDA 兵庫 http://www.amdainternational.com/amda_hyogo/

AMDA を支えてくださっているご支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜び」シリーズ。第 10 回目となる今回は、著名な書家として活躍され、AMDA 設立前の菅波医院開業(1981 年)時から約 35 年にわたり、精力的にご支援を続けてくださっている小野田松濤先生にお話を伺いました。

土と生きる「農民書家」

AMDA 本日はお忙しい中、ありがとうございます。さて、早速ですが、小野田先生と AMDA グループの菅波茂代表との出会いからお聞きしたいと思います。

小野田 私の次男と菅波代表のご長男が同じ小学校の同級生だったのがきっかけです。最初は親同士のつきあいだったのですが、菅波医院が同じ町内に開院し、私が菅波医院内に併設されていた保健福祉施設のボランティア・ネットワークの立ち上げに協力、さらに阪神淡路大震災の際は現地入りして被災地の再建に努めました。今でも親交が続いています。

AMDA 小野田先生は毎日書道展(毎日新聞社主催)で最高賞である「毎日賞」を 2 度受賞され、同展会員に就任。創玄書道会会員、同会二科審査員としても活躍されています。何時から書道を始められたのでしょうか。

小野田 7 歳の時ですから、約 60 年になります。嫁いでは祖母を助けて農業に取り組み、今も 3,300 平方 m で桃を栽培しています。私は自分のことを「農民書家」と考えています。農業は天候などに左右され、自然の偉大さの前で謙虚さを学ぶ一方で、元気をもらっています。農業の経験は書道にも大きな影響を与えています。これからも土とともに生きていきたいと思っています。

書道展に募金箱設置

AMDA 小野田先生と門下生による書道展「小春日和の書展」では、2007 年に初めて AMDA の活動を紹介する

機会をご提供いただき、その後も 10 年間にわたって引き続きお世話になっています。

小野田 農作業がほぼ終わり、皆さんに余裕ができる毎年 11 月下旬の 3 日間にわたり、開催しています。会場は桃の選果場を中央会場とし、築 200 年の母屋や主人が自ら建設したログハウス風の「風の家」、果樹園を利用し

た野外展示場の 4 か所です。会期中、延べ約千人の住民でにぎわいます。

AMDA 小野田先生からお声かけをいただき、「風の家」に向かう道沿い約 30 m に AMDA の活動を伝えるパネルを展示。会場間を移動する人たちの目に留まるよう、目印となる「AMDA」と書かれたのぼり旗の設置にも協力をいただきました。

小野田 AMDA 本部が開設した檜津地区で開かれる書道展に参加することは、地域に根差した活動を目指す AMDA にふさわしいと考えています。

AMDA 書道展の会場に AMDA の募金箱を設置いただき、多くの方から協力をいただいているのは小野田先生にご尽力いただいているおかげです。そのうえ、

小野田先生のご親戚の方が制作された手芸やアクセサリを会場で販売され、売上金の一部をご寄付いただきました。心から感謝申し上げます。

AMDA の活動もっと PR

小野田 そう言っていただけてありがたいです。AMDA の活動の中で災害時の医療チーム派遣は良く知られています。その一方で、被災地再建のための中長期的取り組みをはじめ、AMDA 中学高校生会のスリランカなどでの和平構築活動、新庄村での農作物の有機栽培など、AMDA の活動をもっと積極的に広く知ってもらおう努力をするべきだと思います。AMDA の発祥の地・檜津地区は何かあっても決して AMDA を見放しません。菅波代表の基本的なコンセプトである「多様性の共存」に向けて頑張ってほしいと思います。

AMDA 今日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。小野田先生の心強いエールを胸に AMDA 一丸となって努力を重ねます。よろしく願いいたします。

スリランカ紛争復興支援 和平構築交流事業



スポーツ交流で喜び合う生徒たち

7月29日から31日の3日間にわたりスリランカ北東部にあるトリンコマリーで紛争復興支援の一環として和平構築事業を実施しました。これは、1983年から26年間にわたる内戦によって、敵対し交流のなかったスリランカ国内の3民族の青少年を対象に、スポーツや文化などの交流を通して、和平構築を促進することを目的としており、今年で6度目になります。今年度は、地元スリランカから64名、日本からAMDA 中学高校生会の2名、引率者を含め計77名が参加しました。

宗教プログラムでは、仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教、それぞれの宗教施設を訪れ、普段触れることのない他宗教のしきたりを体感しました。2日目のスポーツ交流では、生徒たちは学校、出身地域に関係なくグループに分かれ、みんなで力を合わせバレーの試合を行いました。ワークショップでは英語、シンハラ語、タミル語と違う言語を話す生徒同士も絵を使うことで言葉の壁を越えて交流することができました。

次世代を担う生徒たちが、このプログラムに参加した経験を活かし、平和的な多様性の共存を実現することに期待しています。

参加者の声

◇常原 拓真 (AMDA 中学高校生会)

このプログラムを通じて僕が学んだことは、日本とスリランカは遠いようで近いということです。第二次世界大戦では日本への賠償金請求を破棄し、親日国になったこと。現地の生徒や先生が日本のことをよく知っていたこと。そして内戦や災害が起きてからの復興の早さ。ただスリランカの歴史を授業であまり習わないため多くの人がスリランカに興味を持たないのが現状だと思います。このプログラムで大切なことは現地に行き、見たり聞いたり体験したりすることも大切ですが、日本に帰ってから現地の様子をいろんな人に伝えていくことが大切だと思いました。

◇斉藤真子 (AMDA 中学高校生会)

今回のスリランカ紛争復興支援和平構築プログラムで心に残ったのは、民族、宗教、言葉は違っても、お互いの文化を尊重しコミュニケーションをとっていたスリランカの学生達の姿でした。

また、洪水被害に遭った学校や障害のある人々が学ぶカミラスクールへ行った時には物資的な支援以外に自分ができる事は何なのだろうと考えました。確かに机やイスなどの物資を寄付することも大切だが、生徒達を前向きな気持ちにできるものはないだろうか考えました。

約1週間のプログラムでしたが多くの大切なことを学ぶことができました。この経験を他の事に活かし、自分にできる様々な活動に取り組んで平和につながれることをしていきたいと思います。

スリランカ洪水・地滑り災害支援フォローアップ

5月15日から降り続いた熱帯性低気圧による大雨の影響で、スリランカのほぼ全域が洪水や地滑りに見舞われました。この災害による被災者は約30万人、死者行方不明者は200人以上にのぼりました。

AMDAでは6月2日に調整員を現地に派遣し、AMDA スリランカ、St.Johns Ambulance Sri Lanka、現地ライオンズクラブの3者と協力し、洪水で被災した2つの地域(マルワナ村、コロンナワ村)で医療活動や学校に通う生徒への物品支援を行いました。スリランカ洪水・地滑り災害被災地支援は、立正佼成会一食平和基金との合同事業として行っております。

洪水被害から約3か月経った8月2日、AMDA 調整員2名とAMDA

中学高校生会から2名が洪水で被災した2つの学校を訪れ、被災後の様子を視察し、支援活動を行いました。6月に医療活動を行ったコロンナワ村近郊にある学校では、被災した子供たちと交流し、学校に対して本とスポーツ用品を贈呈しました。



AMDA 中学高校生会が吹く笛を通じて交流

また、コロンボ郊外にあるカミラ学校は、以前からAMDAと交流のある学校で、様々な年齢層の障がい者47名が暮らす施設です。5月の洪水以降、施設の一部は浸水し使用できなくなっていました。AMDAでは、施設の先生からの聞き取りを基に、キーボード、小太鼓、ピアノなどの楽器と浄水器などを被災したカミラ学校に贈呈しました。

モンゴル国視能訓練技術移転プラン事業



子どもを対象に行われた眼科検診

8月31日から9月5日の6日間、モンゴルでの視能訓練技術移転事業を実施しました。AMDAは2010年から毎年、日本から専門家を派遣して子どもの目の健康を守るためのセミナーや検診等の事業を行っています。

今年で7回目となる今回は、モンゴルの首都ウランバートルから南西約500キロにあるウブルハンガイ県グチンウス村で、子どもを中心とした眼科検診を行いました。

検診した幼児、小学生では、外斜視4名、内斜視3名、眼振(目が揺れている子ども)1名、角膜に傷があった子ども1名がいました。保護者からは、目はとても大切なので、遠くからわざわざ来て検診して下さったことに感謝しているという声が聞かれました。

さらに、9月3日には、ウランバートル市内で、これまでの検診で問題があった子どもたち19名の検診をしました。この中には2年前に検診を受けた児童2名も含まれています。家庭と学校が協力して子どもの目を守る姿勢に対して、小さな手ごたえを感じました。

また、9月5日には、AMDAとモンゴル眼科協会主催による「子どもの眼の健康」についてのパネルディスカッションが、モンゴル保健省で開催されました。子どもの眼科検診の必要性を社会に訴え、定期検診の制度化へ向けて動き出すことです。

そしてモンゴル保健省は、就学前眼科検診を約束し、眼科検診の規定を策定するよう指示しました。眼科協会会長のブルガン医師は、日本の支援者とAMDAに対しての感謝とともに、これまでAMDAと一丸となってモンゴルの子どもの目の健康のために尽力できたことを自らの喜びとしていると述べました。AMDAもこれまでの事業が、モンゴル側の熱意と互いの深い尊敬と信頼のパートナーシップの下に続いていることを実感しています。

【派遣者】川崎医療福祉大学感覚矯正学科教授 高崎裕子先生、川崎医療福祉大学4名、日本視能訓練士協会顧問 守田好江先生、菅波 茂/医師/AMDAグループ代表、ドン・ラオ/医師/AMDAシンガポール支部長、難波 妙/調整員/AMDA職員

【協力】人類愛善会、モンゴル眼科協会、AMDAモンゴリア



子どもの眼の検診に関するパネルディスカッション

GPSP (世界平和パートナーシップ) / 医療と魂のプログラム

医療と魂のプログラムとは、ともに過去から学び、世界の平和を祈り、国際社会に平和の尊さを提唱する事業です。第二次世界大戦の犠牲者には宗教者による慰霊祭を、そしてその家族にはAMDAの医療サービスを提供する、宗教者とAMDAの合同事業として2000年から行っ



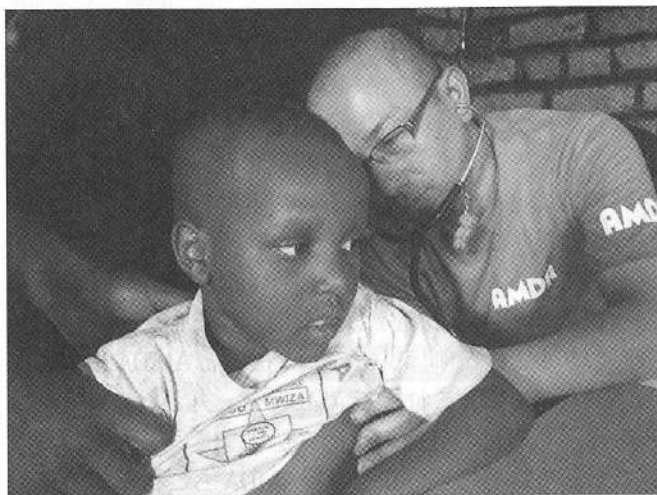
モンゴルで行われた GPSP 平和祈願祭

てきました。ハルハ河戦争(ノモハン事件)から77年目となる今年は9月4日、モンゴル仏教総本山ガンダン寺において、宗教法人大本様にご参加いただき、ガンダン寺のご住職がとともに、第二次世界大戦で尊い命を捧げたモンゴル、日本両国の犠牲者のご冥福を祈り、世界平和を祈願しました。

式典の後は、境内にあるゲルの中で、3年計画で実施されているAMDAガンダン ロータスプロジェクトについて、昨年モンゴル国内の6か所の僧院から60名の少年僧に僧侶法衣が支援されたことが報告されました。また、最終年となる本年度は、少年僧の食糧支援が提案され、実施することがきまりました。

【派遣者】菅波 茂/医師/AMDAグループ代表
ドン・ラオ/医師/AMDAシンガポール支部長
難波 妙/調整員/AMDA職員

岡山の医師がルワンダで小児健診



小児健診を行う中原医師

岡山の小児科専門医師らが9月4日から11日までルワンダを訪問。学校での健康診断をはじめ健診制度の啓発、医療関係者らとの意見交換などを行いました。

2016年度の岡山県国際貢献ローカルトゥローカル技術移転事業（専門家派遣）の一環で、岡山医療センター小児外科医長の中原康雄医師、岡山大学大学院環境生命科学研究科の頼藤貴志医師が参加しました。一行は9月7日に首都キガリの幼稚園児50人、8日には小学1年生41人をそれぞれ健診。不整脈や斜視、腹部膨満などの疾患が指摘されました。

8日に保健大臣、9日には教育大臣と面会し、日本の母子手帳の有用性や妊婦健診、予防接種など一連の健康管理の重要性を説明。大臣は学校の中に検診を組み込む



平成27年度岡山県ローカルトゥローカル技術移転事業で母子保健と学校健診を学ぶために来日したカリオペ医師(右から2番目)より、現状を聞く医師ら。

ことなどについて前向きに検討するとの約束をいただきました。現地の医学部生への講義や意見交換も実施、学生たちから多くの質問が相次ぐなど熱心な姿勢が感じられました。

ルワンダでは1994年、民族紛争が勃発し、人口750万人のうち50万人が虐殺される事態となり、AMDA多国籍医師団が緊急医療支援活動を行いました。その際にマリールイズさんと出会い、共に活動しました。現在日本でマリールイズさんが理事長を務めるNPO法人「ルワンダの教育を考える会」と協力して、2015年8月から10月末にかけ、ルワンダのカリオペ医師が日本の病院での研修を通じ教育現場での定期的な健康診断の必要性などを学びました。

GPSPヘルスプロモーションプログラム カンボジア健康啓発事業2016

AMDAカンボジア支部では、「HIV/AIDSプロジェクト」「サッカープロジェクト」の2つのプロジェクトを行っています。

◆HIV/AIDSプロジェクト

HIV/AIDSプロジェクトでは基礎知識普及のためのパンフレットとTシャツを作成し配布しました。また、カンボジアの保健局とともにHIV/AIDS予防を啓蒙するためのワークショップを行い、60人が参加しました。



◆サッカープロジェクト

AMDAカンボジア支部では、サッカーチームをつくり、定期的に練習や他チームとの試合を行っています。若者がサッカーに熱中し、薬物中毒や暴力などの犯罪防止の活動を行っています。



ネパール地震復興支援活動

昨年4月25日にマグニチュード7.8の大地震がネパール中部を震源に発生し、ネパール各地に甚大な被害をもたらしました。5月12日にはマグニチュード7.3の余震が発生し、被害が拡大しました。AMDA本部では、4月25日の災害発生の一報を受け、緊急救援を決定し医療チームを派遣しました。緊急救援活動に引き続き同年5月26日から復興支援活動を実施しています。

◆学校のトイレ建設プロジェクト

震源地であるゴルカ郡では90%以上の建物が全壊し、多くの学校も被害を受けました。水不足と劣悪な衛生状態が授業運営の大きな妨げとなっており、AMDAは学校でのトイレ建設プロジェクトを計画。ゴルカ郡の2つの学校でトイレ建設を実施し、生徒たちに喜ばれています。



小学校に建設されたトイレ



ボランティア養成講座の様子

◆心理カウンセリングボランティア養成

被災したことによる心的外傷が被災者に及ぼす精神的影響を理解し、それらを軽減するために心理カウンセリングボランティア養成プログラムを実施しました。総勢418名のヘルスボランティアが心理社会的サポートと基本的なカウンセリング技術の研修を受け、修了証を得ました。受講者それぞれが得た知識と技術を活用し、自分達のもとより他の生存者達の心理面での支援につながっています。

◆障がい者支援プロジェクト

昨年のネパール地震で被災された方々の中には、未だに仮設住宅などで生活をしておられる方々が多数いらっしゃいます。障がい者の自立生活に向けてリハビリテーションの視点から必要な支援を行うことが重要です。そこでAMDAは現地製造の車いす支援と福祉用具支援をもとに訪問リハビリテーションを行って閉じこもり予防や自立生活にむけたサポートを行っています。また、バリアの多い遠く離れた地に住んでいても、私たちは大変な悪路であろうと訪問し、見放してはいないという事をメッセージとして伝えるように心がけています。



台所仕事ができるようになった車いす利用者

◆平成28年度岡山県ローカルトゥロカール海外研修プログラム

開発発展途上国の地域の技術水準向上のために岡山県が実施している、ローカルトゥロカール海外研修員としてAMDAダマック病院の内科医のディウス ラジュボホラ医師が来日し、岡山済生会総合病院で内視鏡の研修を受けています。3か月間の研修を修了し、帰国後はAMDAダマック病院で胃腸病に苦しむ患者に上部消化管内視鏡検査によって病状を診断し、必要に応じて胃生検や潰瘍クリッピング検査ができる体制を作ることを検討しています。



岡山県知事訪問の際に挨拶するディウス医師

大規模災害への備え

AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

近い将来、南海トラフ地震・津波の発生が懸念され、33万人の死者と膨大な数の被災者が予測されています。なかには南海トラフ地震の発生率は2018年度には100%に達すると指摘する専門家もいます。杞憂に終われば幸いです。AMDAでは万一に備え、被災予想地域の自治体と順次、連携協力協定の締結を進める一方、関係団体との調整会議、自衛隊のヘリコプターによる緊急医療チームの輸送訓練などを具体化させています。

AMDAは岡山県内外の医療関係者や自治体、経済団体に協力を呼び掛け、南海トラフ地震の対応を協議する調整会議を、2015年6月に丸亀市、9月に総社市で、2016年7月には岡山市で開催しました。2015年11月には南海トラフ災害が起こった際、自治体と連携して円滑に医療支援活動を行うことを目的に、「輸送と通信のシミュレーション」を行いました。

AMDAは四国の高知県と徳島県で最大レベルの被害を想定し、両県と各自自治体との間で連携協力協定の締結を順次進め、両県の10カ所の避難所で医療支援を行う準備をしています。被災者の生活関連物資については岡山経済同友会との協定に基づいて企業のご支援をお願いしています。また、台湾と韓国、シンガポールなど、海外支援ネットワークの構築も進めております。

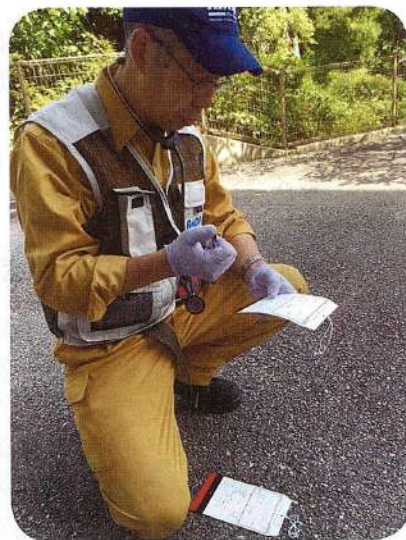
「防災の日」である9月1日には、徳島県の防災訓練の中で、陸上自衛隊第14旅団（善通寺市）とNEXCO（西日本高速道路）の協力でAMDAの医療チームの輸送を行いました。医師4人からなるAMDAチームは高松自動車道高瀬パーキングエリアで、自衛隊のヘリコプター（UH-1）に乗り込み、徳島県海陽町立海南病院そばの広場に到着。AMDA看護師2人を加え、町内の老人保健施設で約2時間、治療の優先順位を決める「トリアージ」や負傷者搬送の手順を確認。海南病院に開設された現地医療対策本部と衛星電話での通信訓練も行いました。

今後も協力自治体・団体と共に南海トラフ災害に備え、準備・

訓練を重ねていきますが、想定外の事態も考えられます。予測される諸課題の把握と万全の対策づくりを目指しています。皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



治療のシミュレーションを行うスタッフ



トリアージ訓練を行う医師

■防災訓練に参加して下さった医師の先生方

荻野 隆光／川崎医科大学付属病院 救急科・高度救命救急センター部長
初雁 育介／戸田中央医科グループ
森 将晏／AMDA 医療統括
佐藤 拓史／AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム運営委員会副委員長

高知県黒潮町 大西勝也町長からのメッセージ 「犠牲者ゼロ」を目指す

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の約1年、内閣府より新想定が公表され、黒潮町には「津波高34.4m 震度7」という国内最大の数値が示されました。この数値は、りにも衝撃的なものであり町民からは「あきらめ」に似た声が上がりましたが、そこから黒潮町の「犠牲者ゼロ」を目指した防

した。
避難道や津波避難タワーといったハード整備はもちろん、住民と共に防災活動を行う『職員地域担当制』や『戸別（た）取り組みを行い、官民協働で進めてきたワークショップな回を超えました。「犠牲者ゼロ」という目標に向かって一歩ず

しかしながら、本町の医療体制は脆弱であり「助かった命課題があります。いざ、ことが起こった場合の不安は尽き災害時の支援に関する協定」を締結できたことは大変心強い

防災の最大の目標は「犠牲者ゼロ」以外にあり得ません。潮町南海地震・津波防災計画の基本的な考え方」にのっとります。

訓練に参加した 佐藤拓史医師の声



9月1日の徳島県防災訓練では、自衛隊とNEXCOとの連携による災害時自衛隊ヘリ AMDA 医療チーム輸送の実動訓練を実施しました。この訓練は南海トラフ地震発災時、徳島県の甚大な被害地域への陸海路のアプローチ困難を想定したものです。いかなる状況下でも超急性期に自衛隊ヘリ輸送にて、AMDA 医療チームが現地入り出来るという重大な意義をもってあります。徳島県、DMAT、自衛隊、各関係機関と連携しながら避難所における救護所立ち上げ、急性期に不可欠なトリアージ、初期外傷治療のシミュレーションを行いました。菅波代表の提唱する広域防災自治体連携において質の高い緊急医療支援をAMDAが担うべく平常時から準備をしっかりと取り組んでいくことを確認しました。



海南病院の対策本部



訓練に参加した医師4名

■南海トラフに向けた協定一覧

2016年9月現在

2011/12/16	十字屋グループとAMDAとの連携協力に関する協定書締結
2013/9/10	AMDAと岡山県立大学、総社との「世界の命を救う」連携協力に関する協定書締結
2014/8/30	丸亀市と総社市とAMDAの3者連携協定締結
2014/12/26	高知県とアムダとの大規模災害時の支援に関する協定書締結 (高知銀行との事前融資枠の設定)
2015/2/2	須崎市とAMDAとの大規模災害時の支援に関する協定書締結
2015/2/2	黒潮町とAMDAとの大規模災害時の支援に関する協定書締結
2015/2/2	高知市とAMDAとの大規模災害時の支援に関する協定書締結
2015/2/3	徳島県、阿波銀行、AMDA3者連携協定
	南海トラフ巨大地震等における医療救護活動に関する協定書締結
	美波町とAMDAとの大規模災害時の支援に関する協定書締結
2015/3/14	株式会社ザグザグとAMDAとの連携協力に関する協定書締結
2015/3/17	台湾外交部訪問 (台湾ルーツとの協定締結時)
2015/4/13	大規模災害発生時における施設使用に関する協定書締結
2015/5/22	徳島県医師会とAMDAとの大規模災害時における支援に関する協定書締結
2015/8/12	美馬市連携協定 (大規模災害時の支援に関する協定書締結)
2015/9/12	両備ホールディングス株式会社との連携協力に関する協定書締結
	牛窓ヨットクラブとの連携協力に関する協定書締結
2015/10/8	徳島県連携協定 (国際的な医療救護活動の支援に関する協定書締結)
2015/11/11	全国訪問ボランティアナースの会キャンパスとAMDAの連携協力に関する協定書
2016/3/24	岡山経済同友会と大規模災害発生時における緊急医療支援活動実施に関する連携協定書締結
2016/5/29	特定非営利活動法人航空医療研究所とAMDAとの連携協力に関する協定書締結
2016/5/30	独立行政法人国立病院機構福山医療センターとAMDAとの連携協定書締結
2016/5/31	備前市とAMDAとの連携協力に関する協定書締結
2016/7/4	和気町とAMDAとの連携協力に関する協定書
2016/7/5	AMDAと公益社団法人岡山県看護協会との連携協力に関する協定書
2016/7/6	吉備学区連合町内会とAMDAとの緊急人道支援活動推進にむけての連携に関する協定書
2016/7/6	学校法人川崎学園とAMDAとの連携協力に関する協定書

1年後、
最大
、あま
が聞か
災まちづくりをスタートさせま

のこと、全職員が担当地区を持
は特別『津波避難カルテ』といっ
はじめとする防災活動は1,000
の進んでいると実感しています。
をどう繋ぐか」といった重大な
ず、AMDAと黒潮町が「大規模
支援となっています。

先日第4次の改訂を終えた「黒
の、今後も各種対策を進めてま

高知県黒潮町 大西勝也町長からのメッセージ 「犠牲者ゼロ」を目指す



2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の約1年後、内閣府より新想定が公表され、黒潮町には「津波高34.4m、最大震度7」という国内最大の数値が示されました。この数値は、あまりにも衝撃的なものであり町民からは「あきらめ」に似た声が聞かれましたが、そこから黒潮町の「犠牲者ゼロ」を目指した防災まちづくりをスタートさせました。

避難道や津波避難タワーといったハード整備はもちろんのこと、全職員が担当地区を持ち住民と共に防災活動を行う『職員地域担当制』や『戸別（世帯別）津波避難カルテ』といった取り組みを行い、官民協働で進めてきたワークショップをはじめとする防災活動は1,000回を超えました。「犠牲者ゼロ」という目標に向かって一步ずつ進んでいると実感しています。

しかしながら、本町の医療体制は脆弱であり「助かった命をどう繋ぐか」といった重大な課題があります。いざ、ことが起こった場合の不安は尽きず、AMDAと黒潮町が「大規模災害時の支援に関する協定」を締結できたことは大変心強い支えとなっています。

防災の最大の目標は「犠牲者ゼロ」以外にあり得ません。先日第4次の改訂を終えた「黒潮町南海地震・津波防災計画の基本的な考え方」にのっとり、今後も各種対策を進めてまいります。

熊本地震支援活動

熊本県熊本地方を震源とする本震（マグニチュード7.3）が4月16日未明に発生してから約半年が経過しました。全壊した民家が放置されるなど震災のつめ跡が今も生々しく残る中で、



広安小学校鍼灸室にて

医院やスーパーなどが次々とオープンし、「住民が自らの力で立ち上がる力強い歩みが印象に残った」と9月末に現地入りしたAMDA職員は振り返っていました。

AMDAが医療チームを派遣した広安小学校（熊本県益城町）の避難所は8月19日に閉所され、町立総合体育館に統合。現在は約120人が暮らしています。広安小学校避難所の閉所に伴い、AMDAは広安小学校での鍼治療を8月11日に終了しました。終了日には鍼灸の先生方にお礼を言いに来る方など、たくさんの方々がきて下さり、鍼灸室は「ありがとう！」であふれました。

鍼治療は今も週1回、総合体育館で継続して行っており、避難者の方々に喜ばれています。

また、広安小では8月28日、避難者やボランティア、AMDA職員ら約200人が出席して「感謝の集い」が開かれ、参加者全員で合唱をしたり、ゲームや談笑を楽しみました。9月25日には広安小で運動会も開催され、児童たちの元気な歓声が響き渡りました。

東北での活動

「Tsubomi」が被災地で多彩な活動

AMDA大槌健康サポートセンター（岩手県大槌町）の元職員が、地域に根付いた活動をさらに活発化するため今年5月に結成した任意団体「Tsubomi（つぼみ）」が多彩な活動を繰り広げています。AMDAの委託事業として、「東日本大震災の被災地に少しでも活気を取り戻したい」と意欲的に取り組んでいます。

■ママのための講座・サロン

「子育てしやすい町」実現へママ自身に取り組むきっかけづくりを目的としたプロジェクト。ネイティブスピーカーの講師による「親子英会話」をはじめ、本物そっくりのフェイクスイーツを軽量粘土などで作る「スイーツデコ」などを実施しています。11月には地域の子育て支援団体、子育て世代と一緒に「子育てフェス2016in大槌」を開催する予定です。

■食と音で奏でる心のハーモニー

楽器の生演奏や歌の披露、お茶会を通して仮設・公営住宅内のコミュニティづくり、住民のストレス解消を目指しています。参加者は気持ちよく声を出して歌ったり、大声で笑いながらおしゃべりを楽しんでおられます。「震災以降、初めて心から楽しめた」と話す人たちもいらっしゃいました。

■ボランティア受け入れ

8月21、22日に岡山県立大学、8月25日に岡山県教育庁のボランティアが大槌町を訪問。Tsubomiは現地での調整を担当しました。研修会では熱心にメモをしたり、活発に質問するなど震災復興へ熱い思いが感じられました。ボランティアによるダンスの披露もあり、お互いの交流を深めました。



ママのための講座での様子



Tsubomi職員2人が演奏者となったサロン

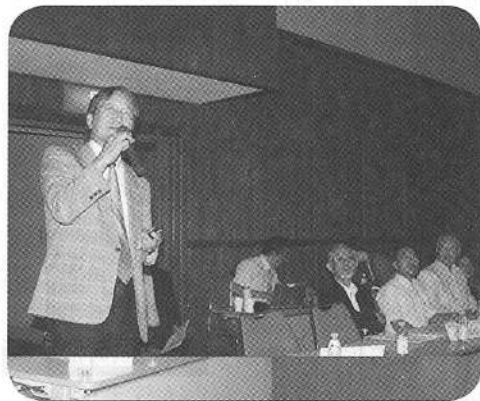


岡山のボランティアの研修会

第4回 国際医療貢献フォーラムを開催

7月24日、AMDAが提唱している国境を越えた人道支援のための構想「西のジュネーブ・東の岡山」具体化に向けて第4回国際医療貢献フォーラム（岡山県共催）が、岡山国際交流センターで開催され、約140人が出席しました。構想の実現に向けて産官学が連携して具体的な取り組みを進める「国際医療貢献プラットフォーム」の設立を決めました。AMDAグループの菅波茂代表は「地域単位で活動する世界のローカルNGOのハブ（拠点）を岡山につくることができたので、一層の国際貢献と地域創生を目指したい」と意欲を示しました。

フォーラムの締めくくりとして、国際医療貢献フォーラム代表世話人を務める岡山大学の佐野俊二教授が今後の方針を説明。「西のジュネーブ・東の岡山」構想の実現に向けたプラットフォームの設立を呼び掛けると、会場から大きな拍手が起きました。



プレゼンを行う代表世話人の佐野俊二教授

「高校生地域防災ボランティアリーダー養成研修会」にAMDA 中学高校生会が参加

岡山県教育庁保健体育課主催で岡山県内の高校生達を対象とした「高校生地域防災ボランティアリーダー養成研修会」に、AMDA 中学高校生会が参加しました。3回目の参加となった今年度は8月2日岡山県立津山高等学校、8月5日岡山県立岡山御津高等学校、8月9日岡山県立倉敷青陵高等学校で開催されました。どの会場もほぼ100名近くの生徒が参加し、防災や災害時での救助活動等の実施訓練などの研修が行われました。AMDA 中学高校生会は「高校生にできること」と題し、自分達が今まで活動してきた内容、ボランティア活動を通して感じたこと学んだこと、そして防災や災害発生時、また復興に向けて高校生ができることを発表。若い力やエネルギーを持っている高校生達が、地域を率先していける真のリーダーを目指し、自ら行動をおこすことが大切だと訴えました。

参加したメンバーたちの声

- ・同世代と発表を通じてしっかり交流できよかった。
- ・すぐ緊張した。メンバーのみんなで意見を出し合いプレゼンが形になっていく過程に感動した。
- ・自分が何も分からない立場だったらと考えたらもう少し、わかりやすいプレゼンがよかったかもしれない。
- ・この発表でAMDA 中学高校生会に関心を寄せてくれた人や入会したいと考えている人もいて嬉しかった。

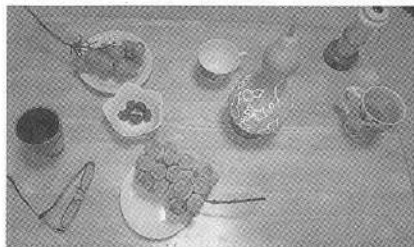


AMDA 中学高校生会メンバー

東北での活動 / AMDA 大槌サポートセンター

台風が相次ぎ東北地方に被害

8月下旬から9月上旬にかけ、東日本大震災の被災地東北地方に台風が相次いで接近し、大きな被害をもたらしました。8月30日には夜間、避難所に行くことができない近所のお年寄りら5人がAMDA大槌健康サポートセンターに身を寄せました。佐々木賀奈子センター長は、準備していた食料と水を提供。瓢箪ランプに火をともし、みんなで一夜を明かしました。大槌町の80歳以上のお年寄りが手作りの団子などを販売していて、AMDA大槌健康サポートセンターと日頃から協力関係にある店舗「おやちあい」にも泥が流れ込み、高齢者らを悲しませました。9月8日はAMDA大槌健康サポートセンターに3人が避難し宿泊しました。AMDA本部は支援物資として防寒マスク、使い捨て手袋、レインコートなどを被災者の方に届けました。



手づくりの瓢箪ランプのあかり



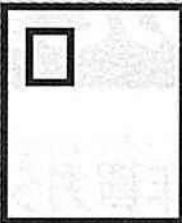
支援物資を渡す佐々木センター長（右）

2016 年 7 月～ 9 月の動き

〈講演〉	内容	主催
7 月 20 日	災害看護	岡山県立真庭高校
7 月 21 日	南海トラフ地震・津波に備えて	北京日本倶楽部
8 月 28 日	アムダの活動理念と主な活動	日本大学通信教育部校友会 岡山桜信会
9 月 12 日	災害時の医療支援と災害看護	岡山労災看護専門学校
9 月 18 日	紛争後の支援	新宗連中国総支部 岡山県協議会
9 月 26 日	社会貢献活動	倉敷中央高校
9 月 29 日	震災後の熊本の現状について	おかやまコープ西エリア
9 月 30 日	日本胸部外科学会	第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会
9 月 30 日	世界の貧困	井原中学校
〈大学講義〉	内容	学校名
7 月 19 日	学生生活概論	就実大学
8 月 28 日	災害医療援助特論 災害セミナー	岡山県立大学大学院公開講座
9 月 1, 15, 29 日	災害看護	相生看護専門学校
〈イベント開催および参加、協力〉	内容	
7 月 8 日、9 日	第 3 回災害鍼灸チーム育成プログラム	
7 月 9 日	第 3 回南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議	
7 月 24 日	第 4 回国際医療貢献フォーラム	
9 月 22 日	野土路農場収穫祭	
9 月 24 日	コープフェスタ	
9 月 25 日	神辺公民館	
〈AMDA 中学高校生会活動〉		
7 月 27 日から 8 月 3 日	スリランカ平和構築プログラム	
8 月 2 日	ボランティアリーダー研修岡山津山高校	
8 月 5 日	ボランティアリーダー研修岡山御津高校	
8 月 9 日	ボランティアリーダー研修倉敷青陵高校	
〈本部訪問〉		
7 月 7 日	後楽館高校 4 名訪問	
8 月 4 日	京山中学校 2 名訪問	
9 月 16 日	矢掛高校 3 名訪問	

事務局よりお知らせとお願い

※多くの皆様からのご寄付、本当にありがとうございます。
お名前の記載の誤りなどがございましたら、恐れ入りますが事務局までお知らせください。



※書き損じハガキ、未使用切手を集めております。
通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

遺贈について

AMDA では、大切な財産の一部をお気持ちに沿って、社会貢献の形で支援活動に役立たせていただいております。三井住友信託銀行株式会社と提携し遺言による寄付をご希望の方に対し、「遺贈による寄付制度」のご利用をご案内しております。<http://www.smtb.jp/personal/entrustment/succession/will/bequeath/>。遺贈によるご寄付をお考えの方はご案内を送らせていただきます。皆さまからのお気持ちとご支援をよろしくお願いいたします。

AMDA 活動パネル展を開催

三井住友信託銀行岡山支店・岡山中央支店ロビーで
AMDA の活動紹介パネル展が 9 月 5 日から 9 月末まで開催されました。

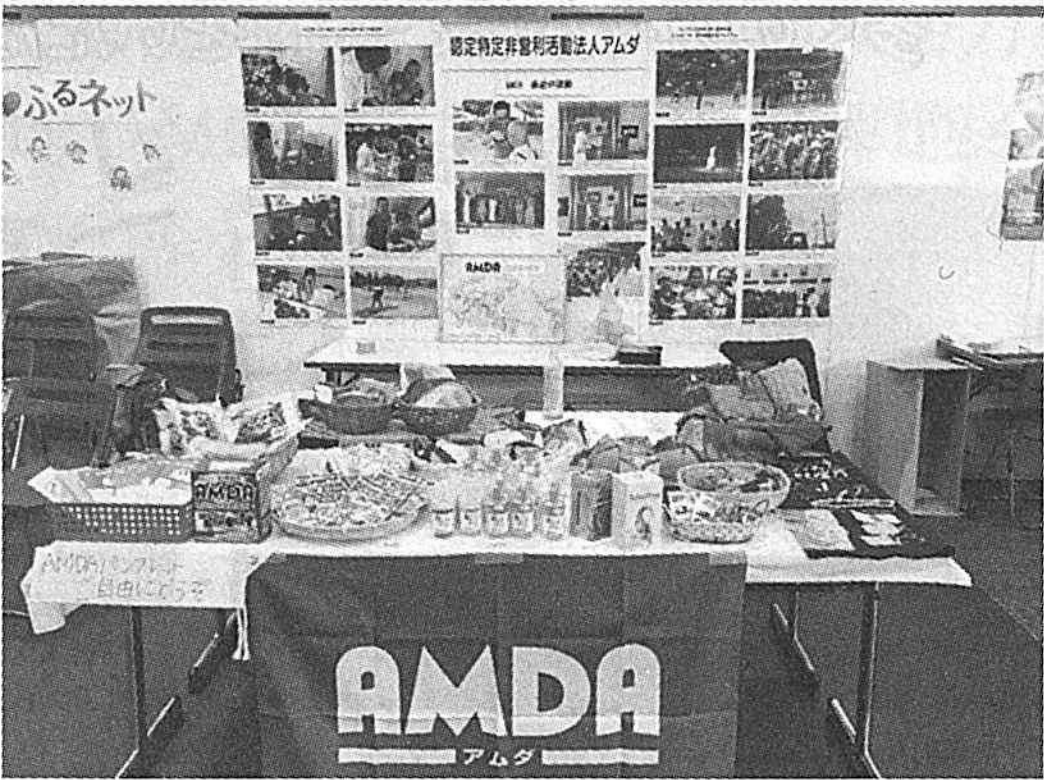
熊本地震や東日本大震災での医療活動、ネパール復興支援、スリランカ平和構築活動の様子を紹介しており、支店を訪れた人たちに熱心に見学していただきました。



コープフェスタで AMDA ブースを設置

9 月 24 日にコンベックス岡山で開催されたコープフェスタ 2016 で、AMDA ブースを設置しました！

活動パネル展示と、東北や世界各地の物産展を行い、たくさんの方々にご覧いただきました。



AMDA フードプログラム

● インドネシア スラウェシ島 マリノ村

AMDA 職員は 7 月 4 日から 13 日までインドネシア南スラウェシ州マリノの AMDA マリノ農場をモニタリングのため訪問しました。2 月初め、雨季の豪雨のなか植えた稲は、収穫の季節を迎えていました。

昨年生産した有機米が好評で高値で販売できたことを受け、今年から新たに 6 軒の農家が有機栽培米づくりに挑戦し、全ての農家が収穫を得ることができました。

有機米を作っている農家全員が有機栽培米の販売化を希望していますが、有機米販売化までの作業はまだまだたくさんあります。付加価値の高い有機米とはいえ味がおいしく、見た目も良く品質が一定でなければ商品力がありません。有機米を作っている農家全員で集まり官能検査を行い、互いの米の品質を確かめあった上で価格を設定するようにアドバイスしました。

さらに、商品化に向けてパッケージングのための包装材やラベルの注文も行いました。

訪問の最終日、有機米の販売先について AMDA インドネシア支部長や AMDA 職員などで集まり話し合いました。その結果、営業販売を農家が自分で行えるようになるにはもう少し時間がかかるということで意見が一致し、今年は出来上がった商品は AMDA インドネシア支部長らが、大学関係者や医療関係者、駐在日本人を対象に宣伝・販売の協力を行うことになりました。



稲刈りの様子



田んぼの穂数を数える農家



シタミ農場長と黄金色に育ったお米

● 野土路農場で収穫祭

AMDA と地元農家が連携して経営している「野土路農場」(岡山県新庄村)で 9 月 22 日、恒例の収穫祭が行われ、約 50 人が参加しました。当日は残念ながら雨が降り、稲刈り体験は中止となりましたが、多くの方が参加し、楽しいイベントとなりました。

平成 29 年 AMDA 支援年賀状企画のご案内

今年も(株)中野コロタイプ様のご協力による AMDA 支援年賀状企画を同封しご案内しています。印刷費の一部が AMDA への寄付となるものです。同封のチラシまたはインターネットでお申込みください!

11/27 までのご発注で 20% OFF です!

年賀通り

検索



お問い合わせ◇ 086-229-9113 年賀通り

有機栽培するコシヒカリと新庄村特産のヒメノモチの穂が黄金色に染まった農場で、地元の保育園児や小学生 13 人が地元で古くから伝わる田植え唄と踊りを披露しました。

また、アロイスウス・シタミ農場長の出身地であるマレーシアに伝わる収穫の踊りを参加者みんなで踊った後、ダックスープとヒメノモチのおはぎ、ブドウが提供されました。野土路農場の有機米は今年も販売予定です。

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



6.27 AMDA 玉野クラブ様



7.8 順正学園ボランティアセンター様



8.17 (株)川本様



9.14 株式会社イリエ様